

英語科学習指導案

2年A組 男子18名 女子12名 計30名
指導者 畑井 綾乃

1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (New Horizon English Course 2)

2 単元について

国際化社会と呼ばれる昨今、海外留学や外国でホームステイをする経験、逆に外国人をホストファミリーとして受け入れる経験などは、生徒たちにとってそれほど縁遠いことではなくなってきている。本単元では、日本の中学生がアメリカでホームステイをする様子が描かれており、生徒は興味と必要感を感じながら学習に取り組めるものと思われる。コミュニケーションをとることの大切さや、日本と外国の生活習慣の違いを理解することの大切さなどを感じる一方、意思疎通の手段として英語が大切であることを再認識する貴重な学習の機会となることであろう。

新しい言語材料としては、have to~ や will、must などの助動詞を学ぶ。身の回りのことや生活習慣等について表現できる幅が広がり、より活発な言語活動につながるものと期待できる。

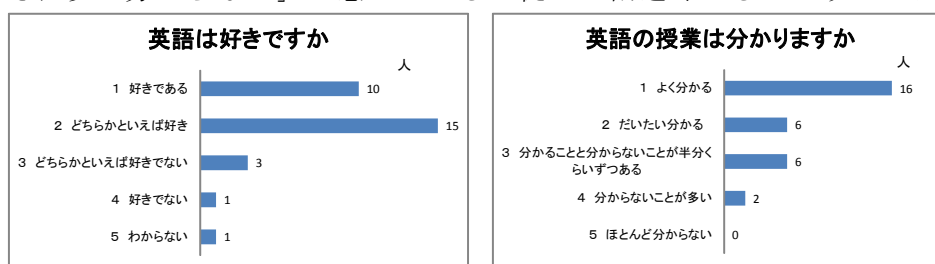
本校の生徒の中にも、海外でホームステイをしたことのある生徒や、家に外国人を受け入れたことのある生徒がいる。また、そのような体験のない生徒にとっても、使用場面を工夫して設定することで、主体的に学習に取り組ませることができるものとする。基礎的・基本的な知識を確実に定着させ、生徒の意欲を引き出す工夫をすることで、表現を自分のものとして、自信をもって積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していきたい。

3 研究主題との関連

コミュニケーション能力の基礎を養うにはどのように指導したらよいか。

—— 4技能(聞く、話す、読む、書く)を統合的に育成するための言語活動を通して ——

本学級は、英語の学習に意欲的な生徒が多い。1学期の学習実態調査によれば「英語が好き、どちらかといえば好き」な生徒が合わせて 83.3 % (25 名)おり、授業はいつも活気がある。しかし、「英語の授業がよく分かる、だいたい分かる」と答えた生徒は 73.3 % (22 名)であり、「半分もしくはそれ以上分からない」と感じている生徒が3割近くいるということになる。



そこで、このように「分からない」と感じる生徒がいるという実態に対し、手立てとして、授業の始めに、ペアでのQ A活動や替え歌による文法事項の確認、単語テスト等を帯学習として繰り返し行うことで、基礎的な知識の定着を図ってきた。その上で、生徒一人一人の運用力と表現力を高めるため、授業の中に、英作文やスピーチ、A L Tとの面接テスト、ペアでのスキットやクイズづくりと発表、といった表現活動を計画的に取り入れてきた。このような実践の積み重ねにより、基礎・基本に裏打ちされながら4技能がスパイラル的に育っていくものと考えている。

本単元でも、帯学習により文法事項を十分に習得した上で、グループで既習事項を用いてスキットをつくり、発表するという表現活動を行う。日本にきた外国人に、日本人が生活習慣の違いに関するアドバイスを行うという場面のスキットをつくり、演じる中で、基本的な知識の活用力を高めることを目指す。そのための手立てとして、本時では、本校教師が出演したビデオとヒントとなるワークシートを準備し、生徒の表現しようとする意欲を引き出したい。さらにはグループでの助け合い学習を仕組むことにより、英語が苦手な生徒にも英語で表現する達成感や仲間と協力して表現する楽しさを味わわせたい。

このような取組を通し、生徒一人一人に既習事項を確実に定着させながら、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てていきたいと考えている。

4 指導目標

- ・ペアやグループでの活動に積極的に取り組むことができる。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・ **have to** ～ や助動詞を用いて、自分の身の周りのことや、日本と外国の生活習慣の違いについて適切な英語で表現することができる。
【外国語表現の能力】
- ・ **have to** ～ や助動詞を含む英文の内容を、正しく聞き取ったり読み取ったりすることができる。
【外国語理解の能力】
- ・ **have to** ～ や助動詞の用法を正しく理解し、適切に運用できる。
【言語や文化についての知識・理解】

5 指導計画（全9時間）

- ・ 第1次 **have to** ～ の用法及び **Starting Out** 2時間
- ・ 第2次 助動詞 **will** の用法及び **Dialogue** 2時間
- ・ 第3次 助動詞 **must** の用法及び **Reading for Communication** 3時間
- ・ 第4次 グループによるスキットづくり、発表 1時間（本時8／9）
- ・ 第5次 まとめと復習 1時間

6 本時の学習

(1) ねらい

- ・ペアでのQA活動やグループでのスキットづくりに進んで取り組み、既習表現をうまく利用して、間違いを恐れずに発表することができる。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・ **have to** ～ や **must** 、 **will** 等の助動詞を正しく用いてスキットを作成し、発表することができる。
【外国語表現の能力】

(2) 展開

展開	配時	学 習 活 動	教師の働きかけ	指導上の留意点 ◆評価（方法）
導入	10	1 挨拶をする。 2 既習文型の復習をする。（替え歌） 3 ペアでQA活動を行う。 4 既習文型の復習をする。（パターンプラクティス）	・大きな声で問答したり歌ったりするよう助言する。 ・原稿を見ないで応答するなど、レベルを上げるよう助言する。 ・文の組立てがしやすくなるよう、ヒントとなる絵等を示す。	・英語学習への意欲付けを図る。 ・スキットづくりにつながるような内容を意図的に取り入れる。
		例 ・ We must not take a picture here. ・ We must not play soccer. ・ We must [have to] clean the classroom in Japan. We don't have to clean the classroom in America. ・ Indian people must not eat beef. We can eat beef in Japan. ・ We must [have to] drive on the right in America. We must drive on the left in Japan.		
展開	3	5 教師の制作したビデオを視聴し、それぞれの場面で問題とな	・日本と外国の習慣の違いを示す4つの場面を撮影したビデオを放映する。 ・場面ごとにビデオを静止して、内容を	・ビデオにより生徒の表現意欲を喚起する。 ・日本と外国の生活習

		っていることは何か考える。	確認する。	慣の違いを知らせる。
		〈ビデオの内容〉 ①外国人が玄関で靴を脱がずに家に入ろうとする場面 ②レストランで出された水に外国人が代金を払おうとする場面 ③そばを食べるときに音を立てている日本人を見て外国人が困惑している場面 ④ピアスなどのアクセサリを付けた私服姿の外国人中学生が、日本の学校に転入してくるという場面		
20	6	各グループ(3人)で4つの場面から1つを選び、スキットをつくる。さらに発表の練習をする。	・ ヒントとなる表現を示したワークシートを配付する。 ・ 評価表を配付し、発表時のポイントを示す。 ・ 英文づくりや発音に困難のある生徒に寄り添い、繰り返し個別指導を行う。	・ 場面選びが極端に偏らないよう配慮する。 ・ 発表の際の評価の観点を予め示すことで、練習のポイントを明確にしておく。
		〈評価のポイント〉 ・ 声…大きさ、抑揚、発音 ・ 態度…ジェスチャー、アイコンタクト、自然さ(暗誦) ・ 内容…助動詞を使った英文の正確さ、内容の工夫 } 個人に対する評価 …グループに対する評価		
15	7	スキットの発表会を行う。また、自己評価、相互評価を行う。	・ 自信をもって発表するよう励ます。 ・ 見ている生徒が発表の内容を理解できているか確認しながら、発表会の進行をする。	◆ よりよい発表を目指し、発音や抑揚、表現方法を工夫して練習できる。 (グループ練習) ◆ 台詞を覚えて自然な発表ができる。 (発表) ・ 小道具を用意し実際の場面に近い言語活動となるよう、雰囲気づくりをする。
		発表例 (場面①) 生徒 A(外国人役): Hello. 生徒 B(日本人役): Hello. Oh, stop! 生徒 A(外国人役): What? 生徒 C(日本人役): You must take off your shoes here. 生徒 B(日本人役): We must not wear our shoes in the house in Japan. 生徒 A(外国人役): Oh, sorry.		
終末	2	8 本時の活動の振り返りを行う。	・ 文法事項の理解と、発表活動の両面から振り返りを行う。	・ 次時の活動(書くことを中心としたまとめ学習)に見通しをもたせる。

(3) 視点

- ・ 準備したビデオやワークシートは、生徒の英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めるために有効な手立てとなっていたか。
- ・ グループでのスキットづくりという活動を取り入れたことは、既習事項を習得し、活用する力を育てる上で効果的であったか。